

2024年度3級審判員昇級試験筆記問題(2024.5.11)

A. 次の(1)から(32)にあてはまる言葉を競技規則通りに記入しなさい。

1. 第1条 競技のフィールド

1 フィールドのマーキング

エリアを囲むラインはそのエリアの(1)であるので、長さはラインの(2)から計測される。

すべてのラインの幅は、同じで、(3)【5インチ】を超えてはならない。ゴールラインの幅は、(4)および(5)の厚さと同じでなければならない。

2 テクニカルエリア

テクニカルエリアに入ることができる者は

- ・競技会規定に従って試合開始前に(6)される。
- ・(7)で行動しなければならない。
- ・トレーナーやドクターが競技者の(8)の程度を判断するため主審から競技のフィールドに入る承認を得た場合などの特別な状況を除いて、エリア内にとどまっていなければならない。

2. 第3条 競技者

交代の進め方

交代要員は、次の条件において競技のフィールドに入ることができる。

- ・(9)されている。
- ・(10)のところから。
- ・交代によって退く競技者が競技のフィールドの外に出た。
- ・(11)を受けたのちに。

3. 第4条 競技者の用具

色

アンダーシャツは、次のものとする。

- ・シャツの各袖の主たると同じ色で、(12)色とする。

または

- ・シャツの各袖と(13)同じ色の柄とする。

アンダーショーツおよびタイツは、ショーツの主たる色、またはショーツの(14)の部分と同じ色でなければならない。同一チームの競技者は、同色のものを着用しなければならない。

4. 第5条 主審

1 主審の権限

各試合は、その試合に関して競技規則を(15)する一切の権限を持つ主審によって(16)される。

2 主審の決定

決定は、主審が競技規則および「サッカー競技の(17)」に従って、その能力の最大を尽くして下し、(18)をとるために競技規則の枠組みの範囲で与えられた(19)を有する主審の見解に基づくものである。

5. 第10条 試合結果の決定

PK戦

試合後にPK戦(20)が行われるときも、他の規定されていない限り、競技規則の関係諸条項が適用される。

6. 第12条 ファウルと不正行為

警告となる反則

競技者は、次の場合、警告される。

- ・(21)を遅らせる。
- ・言葉または行動により(22)を示す。

- ・(23) を得ず、競技のフィールドに入る、復帰する、または (24) に競技のフィールドから離れる。
- ・ドロップボール・コーナーキック・フリーキックまたは (25) でプレーが再開されるときに (26) を守らない。
- ・(27) 反則をする。
- ・(28) を行う。

7. 第14条 ペナルティーキック

キッカーとゴールキーパー以外の競技者は、次のように位置しなければならない。

- ・ペナルティーマークから少なくとも (29) m (10ヤード) 離れる。
- ・ペナルティーマークの (30)
- ・(31) の中
- ・(32) の外

B. 次の 33~50 は、サッカーの競技規則に関する文章である。それぞれの文章の内容が正しければ○を、間違っていれば×を書きなさい。

33. 競技者が競技のフィールドに許可されていないマークをつけたので注意をした。
34. チームリストに氏名が記載されていない者は、外的要因とみなされる。
35. チームのキャプテンには特別な地位や特権を与えられているものではないので、そのチームの行動について責任を有していない。
36. ペナルティーエリア内から守備側チームのフィールドプレーヤーによってキックされたボールがペナルティーエリアを出たのち、誰かが触れる前に主審は負傷者に気づいて試合を止めた。再開は笛を吹いたときにボールのあった地点から最後に触れたチームのドロップボールで再開した。
37. 競技者がペナルティーエリアの中でボールに向かうことでチャレンジしたことで反則をし、その反則が決定的な得点の機会を阻止したとして主審は退場を命じた。
38. キックオフを行う競技者を除いて、すべての競技者は、競技のフィールドの自分たちのハーフ内かつボールから 9.15 m以上離れなければならない。
39. ボールが主審に触れ、チームが大きなチャンスとなる攻撃を始めたので主審は試合を止めて最後にボールに触れたチームからのドロップボールで再開した。
40. 間接フリーキックの際、主審が間接であることを示すシグナルを怠り、ボールが蹴られて直接ゴールに入ったので得点を認めた。
41. ゴールキックが行われるとき、相手競技者が出る時間がなくペナルティーエリアに残っていたのでそのままプレーを続けさせた。
42. 試合前の競技のフィールド点検のために、フィールドに入った後、競技者が主審に対して攻撃的な発言をおこなったので主審は警告を示した。
43. 試合中のペナルティーキックの際、キッカーがボールを蹴る前にゴールキーパーがゴールライン上から片足だけ前方に飛び出し、蹴られたボールをセーブしたため、主審はやり直しとした。
44. 熱中症対策のため、飲水タイムを2分とした。
45. 攻撃側競技者の手に偶発的にボールが当たり、その直後にその選手がシュートを打って得点をしたので、主審は得点を認めた。
46. テクニカルエリア内にいる誰かが特定はできないが、判定に対して言葉で異議を示したため、テクニカルエリア内いる上位のコーチに対して主審は警告を示した。
47. フリーキックの際、3人以上の守備側チームの競技者が「壁」を作った時、すべての攻撃側チームの競技者は「壁」から少なくとも2m離れていなければならない。
48. 主審は同じチームの競技者が衝突し、重傷を負ったと判断したのでプレーを停止した。その後、両方の競技者をフィールドから退出させた後、プレーを再開した。
49. PK戦の際、コインをトスし、トスに勝ったチームが先に蹴ることとなる。
50. 決定的な得点の機会の阻止を判断するうえで考慮すべき状況は「反則とゴールとの位置」、「全体的なプレーの方向」、「ボールをキープできる、またはコントロールできる可能性」、「守備側競技者の位置と数」である。